

+Affiliated with the International Association  
THE Y S MEN S CLUB OF TOKYO HACHIOJI  
Chartered October 30, 1994



〒 194-0211  
東京都町田市相原町 1857  
長谷川 あや子  
TEL & Fax: 042-771-6962  
E-mail: ayako.h3@nifty.com

2025年12月

The Service Club of The YMCA

第366号

## 東京ハ王子ワイズメンズクラブ

会 長 長谷川 あや子  
副会長 久保田 貞視  
書 記 小口 多津子  
会 計 稲葉 恵子  
直前会長 並木 真  
担当主事 西嶋 健太  
ブリテン 山本英次 大久保重子

国際会長 エドワード・オン (シンガポール) 主題「信念、愛、行動」  
スローガン「共に、より強く」  
アジア太平洋地域会長 田上 正 (熊本むさし) 主題「信念と愛を持って行動しよう!」  
スローガン「YMCA、ユースと共に地域社会に貢献しよう」  
東日本区理事 山下 真 (十勝) 主題「ワイズのらしさ再発見」  
スローガン「Change!」  
あずさ部部長 山口 直樹 (東京武蔵野多摩) 主題「垣根を低くし、活発な活動を」  
ハ王子クラブ会長 長谷川 あや子 主題「若い人の成長を願い、ともに歩む」

### 2025 年 12 月クリスマス例会プログラム

日時: 12 月 14 日 (日) 15:00~18:00

会場: 高尾の森わくわくヴィレッジ・音楽室、カフェテリア

担当 A 班: 長谷川、稲葉、並木 (真)、小口

#### 第 1 部クリスマス例会 15:00~15:40 (音楽室)

司会: 小口ワイズ 奏楽: 永町匡世さん (ピアノ)

開会点鐘 会長 長谷川あや子

前奏 永町匡世さん

讃美歌 103 番 まきびとひつじを

聖書朗読 マタイによる福音書 2 章 1-12 小口ワイズ

奨励「主イエスの誕生と学者 羊飼」飯島隆輔牧師

お祈り 飯島隆輔牧師

讃美歌 109 番 きよこの夜

黙想

~~~~~

事務報告 会長 長谷川あや子

YMCA 報告 西嶋担当主事

閉会点鐘 会長 長谷川あや子

#### 第 2 部 永町さんと阿部さんの楽しいコンサート

15:50~16:40 音楽室

司会: 長谷川会長

\* ゲスト・ビジターのご紹介

\* 楽しい 懇親のゆうべ... 永町・阿部姉妹コンサート

ピアノ 永町匡世さん バイオリン 阿部智世さん

ダニー・ボーイ、煙が目にしみる、ノバネラ、マンボ他

みんなで歌おう、脳トレ・イントロクイズ

\* ハッピーバースデー (メンバーなし) 長谷川会長

\* スマイル (多摩いのちの電話のために) 稲葉ワイズ

\* 記念撮影 山本ワイズ

#### 第 3 部 楽しい会食 17:00~18:00 カフェテリア (1 階)

進行: 長谷川会長

乾杯 中里 敦さん

楽しい食事 特製「わくわく御膳」飲み物

#### 先月の例会ポイント (11 月)

|        |      |      |   |          |
|--------|------|------|---|----------|
| 在籍     | 11 名 | 切手   | 計 | 0g       |
| メン     | 8 名  |      |   |          |
| メイキャップ | 3 名  |      |   |          |
| 出席率    | 100% | 現金   |   | 0 円      |
| メネット   | 1 名  | スマイル |   | 21,500 円 |
| ゲスト    | 1 名  | 累計   |   | 45,400 円 |
| ビジター   | 10 名 |      |   |          |
| ひつじくも  | 4 名  |      |   |          |

#### 今月の聖句 (2025 年 12 月)

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。御子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。

(新約聖書 ヨハネによる福音書 3:16-17 聖書協会共同訳)

# 巻 頭 言

## 宣教師とは何か！

講師：甲府21クラブ 後藤哲夫さま卓話要旨

日時：2025年11月8日 八王子 第一例会

場所：八王子ベテル教会

講師：甲府21クラブ 後藤哲夫様



### 要約

本講演は、元山梨英和学院教員でキリスト教関連の翻訳家である後藤哲夫氏による、「宣教師とは何か」というテーマの講話である。「宣教師」とは、単なるキリスト教の伝道者でなく、伝道・教育・社会事業を通して地域社会に貢献し、人々の生活や価値観に変革をもたらした人。その根底にキリストによる愛と赦し、他者への実践を重視している。内容は、カナダ合同教会(旧カナダ・メソジスト教会)の日本における宣教活動の歴史から始まる。1873年に禁教令が解かれた日本へ渡った初期の宣教師たちの活動を紹介し、特に伝道、教育、社会事業という3つの柱を中心に、サンビー、マッケンジー、カートメル、ストーンといった男女宣教師たちの具体的な功績が語られた。また、メソジスト教会の創始者ジョン・ウェスレーの思想と活動が、日本の著名なキリスト教社会運動家である賀川豊彦に与えた影響について詳述。ウェス



レーの巡回伝道(サーキット)・教育・社会事業といった活動が、賀川の協同組合運動や貧民救済活動に深く受け継がれたことを、具体的なエピソードを交えて解説している。

### 知識点



1. カナダ合同教会(カナダ・メソジスト教会)の日本宣教の始まりと背景

カナダ合同

教会の前身は「カナダ・メソジスト教会」であり、プロテスタントの一教派である。

プロテスタントの海外宣教は、18～19世紀に欧米で起こったリバイバル運動(信仰復興運動)をきっかけに始まったカナダメソジスト教会は、アメリカのメソジスト教会から分離して50年を迎えたことを機に、海外伝道を計画した。

1871年(明治3年)、日本や中国への伝道を決定。

1873年、岩倉使節団が欧米でキリスト教を禁じていることを非難された結果、日本政府が禁教令の高札を撤廃。奇しくもこの年に、カナダからの宣教師が日本へ派遣された。

初期の宣教師とその活動

活動の拠点、横浜から「築地」居留地から始まり、東京、そして中部地方から北陸地方へと広がった。

第一陣(1873年)G・カックランとD・マクドナルドが来日。

カックラン: アイルランド移民出身。ほとんど独学でヘブライ語とギリシャ語を学び牧師となった。

マクドナルド: 医師の免許を取得して来日した。

第二陣: C・S・イビーとG・M・ミーチャムが来日。

イビー: 学生伝道に力を注ぎ、将来の日本を担う若者を育てる方針を掲げた。東京大学の近くに「中央会堂」を建設した。

初期の活動拠点と逸話

中央会堂は、夏目漱石の小説『三四郎』の作中に登場する場所として知られている。

また、野口英世が東京大学医学部に在籍中、この中央会堂の小部屋に寄宿し、指の手術を受けた際に教会の女性会員から手厚い介護を受けたという逸話が『中央会堂五十年史』に記されている。

自給伝道隊

宣教師を多数派遣するための資金不足を補うアイデアとして考案された。

日本の官立や私立の学校で英語を教え、給料を得ながら伝道活動に従事する人々を指す。

この制度により、当時 11 名の宣教師が来日した。J・W サンビー、D・R マッケンジー、R・エンバーソンなどがこ

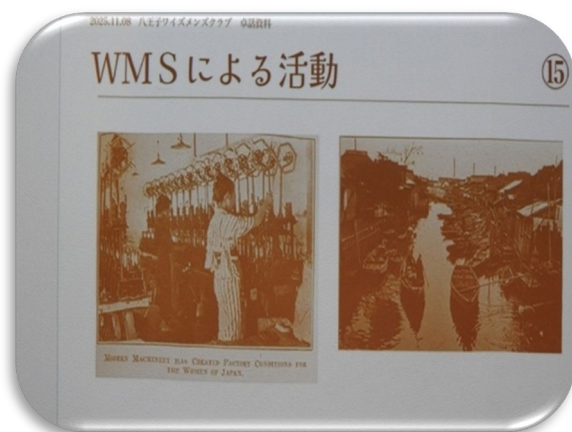


の自給伝道隊に属していた。

カナダメソジスト教会の本部

本部はカナダのトロントにある。外ロポリタン教会で派遣送別会が開かれ、男子ミッションが組織された。

## 2. 男性宣教師の活動



### サンビー

甲府や東京東部(日暮里、根岸など)で伝道活動を行った。

日暮里に社会事業施設「愛隣団」を設立後に発展し、当時画期的であった「愛隣小学校」や、地域住民を助けるための「廉売所」など多くの施設を運営した。

1873 年から 50 年の宣教の歴史をまとめた本“New Chivalry in Japan”『日本の新しい騎士道』を執筆し、その中に当時の貴重な写真が収められている。途中で肝臓がんを患い、帰国した。

### マッケンジーと P・G・プライス

マッケンジーは金沢で孤児院「金沢育児院」を設立した。

プライスはマッケンジーの後を継いで育児院の院長を務めた。

プライスは金沢にキリスト教書店「福音館」(現在の絵本などで知られる福音館書店の前身)を創設した。

その後、帰国したサンビーの後任として、東京東部の社会事業を引き継いだ。

### バット

戦後、日本の人々のために食料、医療、薬品など物資を届ける活動に尽力した。

非常に頑強な人物であったが、過労のため 59 歳で亡くなった。

彼の名を冠した養護施設「バット博士記念ホーム」が町田に存在し、YMCA 関係者が施設長を務めていた。

### ストーン

バットの後を継いだ宣教師。

青函連絡船「洞爺丸」の海難事故(死者 1155 人)に遭遇し、自身の救命具を学生に譲って亡くなったとされる。

このエピソードに感銘を受けた三浦綾子が、小説『氷点』の作中にその話を取り入れた。

## 3. 女性宣教師の活動と功績

### 婦人宣教協会

1881 年に設立された、女性だけの宣教団体。

男子ミッションと同様に、伝道、教育、社会事業の 3 本特に教育面で優れた功績を残し、山梨英和学院、静岡英和学院、東洋英和女学院などの設立の他、幼稚園での活動に尽力した。

### マーサー・J・カートメル

東洋英和女学院を創設した人物。一度体調を崩しカナダへ帰国したが、再来日した。

99 歳まで長生きし、東洋英和に絶大な影響を与えた。

### ライザ・S・スペンサー(ミセス・ラージ)

男子ミッションが設立した東洋英和学校(後の麻布学園の源流)の教師、ミスター・ラージの妻。

夫が校長室で賊に惨殺された際、自身も指を 2 本失い、額に傷を負う重傷を負った。このため、写真を撮る際は負傷した右手を隠していた(?)。

後に男子ミッションと対立し、責任を取る形で一度帰国するが、禁酒同盟の宣教師として再来日した。

### その他の女性宣教師

**S・A・ウイントミュート(ミセス・コーツ)** : 山梨英和の初代校長。

**M・J・カニンガム** : 静岡英和の初代学長。

**アームストロング** : 日本に帰化し、「アーム先生」として富山で幼稚園教諭を務め、県民に広く愛された。



**グリーンミンク:** 山梨英和の中興の祖とされ、卒業生から非常に尊敬された校長。



**アニー・アレン:** 東京東部の亀戸で社会事業を展開。遊郭があり貧しい人々が水上で生活していた地域で、無料宿泊所兼学びの場「愛生館」を設立した。

#### 4. ジョン・ウェスレーと賀川豊彦への影響

ジョン・ウェスレーの思想と活動

メソジスト教会の創始者。「メソジスト」という名は、オックスフォード大学時代に彼らの几帳面な生活スタイルを揶揄して「メソッド(几帳面)な奴ら」と呼ばれたことに由来する。

##### 活動の3本柱:

1. 巡回伝道: 馬に乗ったり、自らの足で歩いたりして各地を巡る伝道した。
2. 教育: 教会外での野外説教を通じて教育の重要性を認識し、貧しい子供たちのために無料の学校を設立した。
3. 社会事業: 産業革命で生まれたスラム街の貧困者や弱者に目を向け、施設や病院を次々と建設した。

##### 賀川豊彦の人物像と業績

ガンジー、シュバイツァーと並び「東洋の聖者」と称されるほど世界的に有名だった人物。

主な業績は、協同組合運動(現在の生協の父)、農業協同組合(農協)の設立、農民運動への尽力など多岐にわたる。

最も重要な側面はキリスト教の伝道者として、多くの人々を信仰に導いたことである。

##### 賀川豊彦の半生と信仰の確立

神戸の裕福な家の父と芸者の母の間に生まれ、家が没落した後は叔父に育てられた。キリスト教の道に進むことで援助を絶たれる。

神戸の神学校(後の明治学院)でマイアス宣教師とローガン宣教師に温かく受け入れられた経験が、自身のアイデンティティを確立する上で決定的な出来事となった。

18歳頃から結核を患い、生死の境をさまよう。奇跡的に

回復した際、「神に生かされた」と感じ、その時に読んだ『ジョン・ウェスレー伝』に深く影響を受けた。

その後『ジョン・ウェスレー伝』原著を賀川に与えたのは、カナダの宣教師であり、後に関西学院大学の学長となるベーツ先生であった。

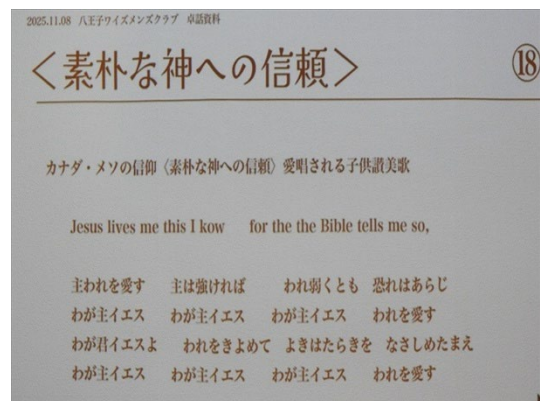
##### ウェスレーから賀川への精神的継承

ウェスレーの「罪から清められ、それを他者への実践に向ける」という精神は、賀川豊彦に完全に引き継がれた。

ウェスレーがロンドンのスラム街で活動したように、賀川も神戸のスラム街(新川)で貧しい人々と共に生活し、活動した。

賀川の協同組合運動や社会事業は、ウェスレーの思想を日本で具体化したかのようだ。

#### 5. 宣教師の精神性と背景



##### 宣教師の動機(宣教大命令)

宣教師の活動の根源には、マタイによる福音書の最後にある「あなたがたは行って、すべての国民をわたしの弟子となさい」というキリストの言葉(宣教大命令)がある。

この言葉を自身の生涯をかめるべき使命と受け止め、海外での伝道活動に従事した。ウクライナのオデーサで27年間活動する船越真人牧師、加古川バプテスト教会所属もこの言葉に感銘を受けた一人である。

##### アイルランド系メソジストの特徴

カナダ・メソジストの宣教師にはアイルランド系の人物が多かった(例: マッケンジー、アームストロング、グリーンミンク、ノルマンなど)。

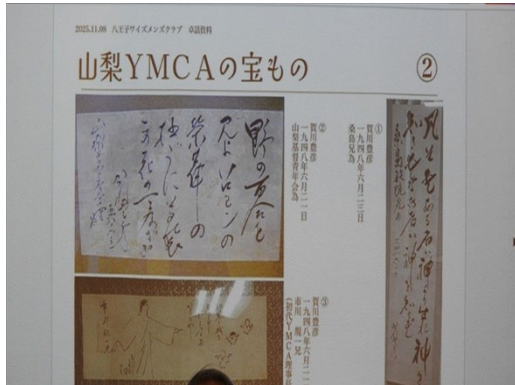
彼らの祖先は、英国の支配下で苦勞し、ジャガイモ飢饉などを経てカナダへ移民した歴史を持つ。

そのため、ユーモアとウィットに富み、陽気でありながらも律儀で質素な気質を持つとされる。主食がジャガイモであったというエピソードも紹介された。

##### 多様な人格

宣教師の人格は、時代、家庭、教育、経験などによって形成され、千差万別である。

長野で活動したホルマンのように、誰とでも親しく交わる心優しい人柄の者もいれば、バットのように貧困や不正義に対して戦う者もいた。



## 6. 補足事項と質疑応答

### 関西学院との共同経営

講義の最後に重要な補足として、カナダ・メソジスト教会が関西学院の共同経営に関わっていたことが述べられた。

これはアメリカの南メソジスト教会との共同事業であり、経済的援助や宣教師の派遣をほぼ同規模で行った。距離的な問題から議論はあったものの、ベーツ先生やホルマン夫妻(夫は教授、妻は神学部の准教授)など、多くの立派な宣教師が関西学院へ派遣された。メソジスト系でも、青山学院(アメリカ北メソジスト監督教会)とは異なり、カナダと南メソジストが協力して関西学院を発展させた歴史がある。

### 子供讃美歌「主われを愛す」

「主われを愛す」という単純な歌詞がポイントであり、メソジストの心情をよく表しているとされる。

当時、子供たちの間で非常に流行し、仏教日曜学校で替え歌ができるほど有名になった。

難しい教義よりも「イエス・キリストが私を愛してくださっている」という単純で素朴な信仰の核心を捉えることが重要であると示唆された。

### 質疑応答: 当時の交通手段

当初、大陸横断鉄道はなく、馬車でサンフランシスコに移動し船で24日かかった。

1903年に中央線が甲府まで開通したことで、宣教師の移動が容易になり、甲府での活動が大きく変化した。それ以前は峠を越えて2日がかりで移動していた。

北陸へは東海道線で移動し、そこから北上するルートが使われた。交通手段の発達がキリスト教の伝播と密接に関わっていた。

## 応援団とゲストのみなさん





## 東京 YMCA 「秋のペタペタ歩き」で 多摩湖めぐり

小口多津子

11月最後の土曜日の29日、東京YMCA会員部主催「第21回ペタペタ歩き」に参加してきました。

毎年、春と秋の2回あります。今回は、村山貯水池を2/3周する「多摩湖を巡る秋探訪」でした。

17名の参加、西武多摩湖線多摩湖駅で集合、駅の外でミーティング、自己紹介、所属

などで初めての方と目が合うと、よろしくと。八王子クラブからは、長谷川さん、久保田さん、中里さん、小口でした。狭山公園に入ると、真っ青な空と紅葉し

た樹々に迎えられ、折よく村山

貯水池上空で消防団の演習も見られ、東京都の大事な水源の一つ、村山貯水池のえん堤上をかなり歩きました、見事な紅葉の樹木のトンネルをくぐり抜けて、しばしトロになった気分。ずっと、一日中いたいな〜という気持ちでした。

このペタペタ歩きシリーズ、いつの頃からか、田中博之さんのクイズ形式が全行程中に実施され、問題の答えを探しながらの歩きなので、ぼんやりしてられません。小鳥名前、樹々の名、貯水池が東京ドーム何個分？とかの問題がぎっしり。昼食時の答え合わせで、10位まで賞品がでます。可愛い商品でした。



広大な貯水池を周りながら、昔の西武球場のドームの脇を抜けて、やっと昼食の公園の中でひと息つきました。農家の間をくぐり抜けて、豊鹿島神社に到着、都内で現存する最古の神社、室町時代に建てたとのこと。静かな落ち着いた場所でした。歩いた場所は、東大和市になります。

そして、20分ほど歩き、終点のモルール駅の上北台駅に到着、別に打ち上げもなく、全員の日焼けした笑顔でまた次は4月に、と解散しました。全行程で1万

6000歩、約8キロコースでした。

この歩きのコース決めには、西東京センターのかつてのサポーターの皆さんが、2か月前からZOOM参加で、話し合います。そして、決ると、毎回東京YMCAの会員部の熊沢さんと田中さん、綿引さんの3人で下見をされて、歩くコースを決めて下さいます。参加者のうちワイズは全体の半分ほど、東京YMCAの学生さん、あとは友人とか、チラシで知りましたという方がた、小学生も参加されるほど人気のプログラムです。長い半日を、一緒に秋を感動してこんな素晴らしいプログラムはないと思っています。

東京八王子クラブの昔の、20年ほど前のウェルネスというプログラムを思い出しました。あの頃は本当に楽しい、心がワクワクした時代でした。(写真は、田中博之さん撮影)





## ドイツでの留學生活

ひつじぐも 風間梓沙

こんにちは。ひつじぐもに所属している大学3年生の風間梓沙です。私は現在ドイツに留學しており、並木さんからそこでの生活の様子や街の様子を紹介してくれるかというご提案をいただきましたので、ブリテンの一部をお借りして私の留學生活をお話させていただきます。初めにドイツを選択



した理由について説明いたします。私は幼いころから伝記を読むことが好きでした。その中でひと際関心を抱いたのがアンネ・フランクという少女の話でした。彼女の伝記をきっかけにドイツの歴史に興味を持ち、大学ではドイツの歴史について深く学びたいという思いから中央大学ドイツ文学文化専攻に入学いたしました。そして現在のドイツではナチ時代の出来事がどのように扱われているのかを知るためにドイツ留學を決めました。私が住んでいる街はテュービンゲンというドイツ南部に



位置する小さな街です。自然が多くて住みやすく、街並みは中世の雰囲気が残っています。また、学生の街といわれるほど学生が多く、大学には様々な国からの留學生が通ってい



ます。ほとんどの学生が寮に住んでいるため、よく学生同士で集まってお互いの国の料理をふるまい合ったり、カードゲームやボードゲームをしてドイツ文化に触れたりしています。休日はよくドイツ国内を旅行します。ドイツにはバスや普通列車を1か月乗り放題できるチケットがあるため、近隣の町に簡単に出かけることができます。最近の旅行で一番感動したところはウルムという街にある教会です。ドイツはキリスト教文化が根付いているため、教会が多く存在します。ウルムの教会は世界で最も高い塔をもつとして知られており、その荘厳さは圧巻でした。このような巨大な建物が何百年前から存在しているとは信じられません。



ドイツは建物や宗教文化、食文化など日本との違いが数多くあり、日々が刺激で溢れています。また他国の留學生と共に学び、共に生活することで「多文化共生」という意味について

でも考えることが多くなりました。残り3か月となりましたが、一つ一つの経験に考えを巡らせ、成長して帰国できればと思います。



## 山梨YMCA チャリティバザー訪問記

長谷川あや子

11月3日、朝から上天気、八王子8時33分発のあずさ5号に乗って甲府へ向かい、恒例の山梨YMCAチャリティバザーに遊びに行きました。

今年は何と第65回だそうです。2021年の秋はコロナ禍の影響もあり、開催自体、一大決心だったようです。

山梨YMCAのバザーは年を追うごとに人気が出て



開始時にはもうお客さまがいっぱいでした。甲府、甲府21、甲府やまなみ、富士五湖クラブが出店し、クラブ総出でバザー

を盛り立てています。甲府クラブは雑貨、到来品などのびっくり市。甲府21クラブは、YMCAに集う子ども達と一緒に種まきから始め育てた野菜、葉つきの大根が飛ぶように売っていました。この種は並木真さん提供の種の数々です。それに長野県安曇野のコシヒカリ(2kg)。昨年は遠慮したのですが、今年は迷わず買ってしまいました。私の大好きな甲斐古餅のある和菓子店、シクラメンやポインセチアのお店がひととき華やかでした。

甲府やまなみクラブは「やまなしグローバルフェスタ」などで活躍されていますが、タイコーヒーの販売など国際色豊かでした。YMCAのコースは色彩豊かなタイの小



物を販売。富士五湖クラブはおも

ちゃ釣り。子ども達が目を輝かせて挑戦していました。

飲食ブースは甲府21クラブのメネットさんたち総出で大活躍でした。カレー、焼きそば、焼き芋のメニューですが、テントのレストランは入れ替わり立ち代わりのお客さまでいっぱいでした。カレー、美味しかったです！バザーのお客さまは主婦層が多いのですが、子ども達は勿論、高校生が多くて驚きました。YMCAのバザーの特色でしょう。

バザーの収益金は障がい者支援、高齢者介護、地域貢献、国際協力事業などYMCAの実施しているチャリティ事業運営に役立てられます。バザーの準備から終了後の整理まで携わってこられた皆さま、本当にお疲れさまでした。私はお店を回りながら、各クラブのメンバー、メネットの皆さんとお話できとても楽しかったです。

## 伊東クラブの創立50周年記念例会に参加して

久保田貞視

11月15日(土)15時、ホテルサンハトヤ伊東で開催さ

れた伊東クラブの創立50周年記念例会に長谷川あや子ワイズと並木



真ワイズと共に参加しました。

当八王子クラブの昨年10月の設立30周年記念例会に伊東クラブワイズの熱心な誘いもあり部を超えて参加した次第で、他に多くのクラブに呼び掛けられて今回は155名の多数の出席者となりました。

開会は予定より30分遅れましたが、開会点鐘・開会の言葉で始まり、伊東市青少年合唱団の合唱、伊東クラブは同合唱団を継続的に支援し、助成金の授与がありました。続いて、会長挨拶、来賓祝辞として山下理事、勝俣富士山部部長が壇上に立ち、静岡YMCA小林理事長の挨拶が続き、これまでに伊東市青少年キャンプ場諸施設の建設を続け、他にも記念樹・記念碑建立やなど地域貢献をしてきたことなどが伝えられました。メモリアルアワーでは過去10年で逝去されたワイズ5人の追悼を報告。

今回の50周年記念事業としては北海道・北見クラブとのDBCの締結を発表しました。

また、チャーターメンバー表彰では50年継続会員の二人の会員に記念品が手交されました。

第2部の祝賀会は会場を替えて、歓迎の言葉に始まり、田中元アジア太平洋地域会長、鈴木次期東日本区理事、松永熱海クラブ会長、DBCの彦根シャーククラブ金沢会長、京都プリンスクラブ今西会長、北見クラブ二本松会長、伊東クラブOBの堀口氏の祝辞があり、食前の感謝は東京武蔵野クラブの山口あずさ部部長、長田下田クラブ会長による乾杯の音頭で祝賀会が始まりました。祝賀会はスティールパンオーケストラの演奏を聴きながら飲みながら食べながらの会で、最後にクラブ・ビジター紹介で稲葉実行委員長の開会の謝辞となりました。その間、京都プリンスクラブの岡西ワイズにDBC候補をお願いしていた所、京都メイプルクラブを紹



介していただき、また、真ワイズが伊東クラブとDBCで台湾の高雄ポートクラブとIBCでもある彦根シャトクラブの皆さんを連れてこられたので一緒に写真を撮りました。DBCについてはクラブ例会で検討しましょう。

会は人数が多く騒然とした中で閉会となりました。

### 今月の聖句に寄せて(2025年12月)

昨日も今日も、あそこの戦場で、こちらの事故で、失われた命の、夥しい数が伝えられています。戦争や大きな事故・災害で、人間一人一人ははともすれば、顔のない数字に置き換えられてしまい、途方もない痛みや悲しみから遠ざけられています。これらの数字の中から人間の顔を想い浮かべ、声を聴き分けるのがとても難しいからです。しかし、そうではあっても、その全ての数字の中に、一人一人の顔があり、語らう声があったことを想起することを私たちは求められています。それでなければ、戦争を、事故や災害を、私たち自身の力をもって、遠ざける力は生まれてこないからです。

聖書の中でイエス・キリストは、いつも他の誰とも見違えようのない顔と声を持つ一人一人と向き合い、救いの手を差し述べられています。百匹の羊の内、九十九匹の羊をおいても、見失った一匹を見つけ出すまでどこまでも捜し歩くのです。

人間の悲惨と罪とをにぎひ、一人の人間として歩み、十字架にかかって悲惨な死をとげたイエス、このイエスこそが、世を救うために遣わされた神の独り子キリストであった、と信じるのがキリスト教の信仰と言えます。根底には「一人一人」の人間に向き合うイエスの姿があります。

「一」に「止」まる、それが「正」しい、などと漢字を読み解く向きがありますが、この「一」こそが、原点であり、また、行きつく先でもありましょう。

クリスマス、神がお与えくださった独り子、イエス・キリストの降誕を共に喜び、お祝いいたしましょう。

並木信一



## 東京 YMCA 便り

担当主事 西嶋健太

- 10月25日、横浜YMCAと共催で「J.T.スウィフト主事&ミラー主事墓前礼拝」を横浜外国人墓地で行い、両YMCAの会員、職員OB、職員など19名が参加した。墓前礼拝の後は、懇親の時を持った。
- 11月4日～6日、東京YMCAがホストし、「第22回ソウル・台北・東京YMCA指導者協議会(STT)」が「Our Responsibility for the Future - To Leave No One Behind」をテーマにアルカディア市ヶ谷を会場に開催された。3都市YMCAの役員、会員、職員など54名が参加した。基調講演は、社会福祉法人賛育会の大江浩氏に「賛育会“赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト”～すべてのいのちが守られるために～」と題してお話しいただいた。その他に、各YMCAの活動報告、都内観光等を通して、相互の学びと交流が図られた。
- 11月13日、「YMCA・YWCA合同祈禱週礼拝」が在日本韓国YMCAにて開催された。東京YWCA、在日本韓国YMCA、東京YMCAの共催で開催され、会員、職員など44名が参加した。金聖泰(キムソンテ)牧師(在日大韓基督教会 東京教会 副牧師)に「回復する家の物語」と題して奨励をいただいた。第2部では交流の時を持った。
- 11月15日、「国際協力一斉街頭募金」を新宿駅周辺で実施した。会員、ユースボランティア、園児、学生、メンバー、職員など約110名が街頭に立ち、バングラデシュとウクライナへの支援を呼びかけ、200,771円が寄せられた。
- 11月17日、「2025年度賛助会年会・アドバイザー会」がアルカディア市ヶ谷にて開催され、賛助会員、アドバイザー、役員、職員など計52名が出席した。氏家純一賛助会長(氏家経済研究所代表取締役)の挨拶で開会し、星野総主事から東京YMCAの活動報告がなされた。続いて永年継続賛助会員9法人の表彰と新入会員1社の紹介があった。その後、村井純氏(慶応義塾大学特別特区特任教授・東京YMCAアドバイザー)より、「インターネット文明」のテーマで講演があった。
- 今後の主な行事予定  
・「早天祈禱会」12月1日(山手センター／オンライン) 奨励:山北 宣久氏(日本基督教団田園調布教会 牧師)

## YMCA 便り続き

・「職員クリスマス礼拝」12月16日 会場：日本基督教団  
霊南坂教会

説教：上林 順一郎牧師

奏楽：飯靖子氏（東京YMCA理事）

・「ソシアスフォーラム 2025」1月31日（山手センター／  
オンライン）

7. 海外来訪者

・11月16日～20日 フロストノレーYMCA Riel  
Peerbooms CEO・Vicky Eddings 副総主事

8. 関連団体の動き

・台北YMCA80周年記念式典 11月22日 会場：台  
北YMCA

さらに、11月には北米フロストノレーYMCAのCEO、  
COOが来訪され、東京YMCAの管理職会議において  
「フロストノレーYMCAの取り組み」についてのご講演を  
いただきました。地域社会との新たなパートナーシップ  
の築き方や、多様性を尊重した運営のあり方など、わく  
わくビレッジにとっても多くの学びを得る貴重な機会とな  
りました。

季節はいよいよ冬本番。森は静けさを増し、澄んだ空気  
が気持ちのよい季節です。これから自然と人が寄り  
添う場所として、皆さまに愛されるわくわくビレッジであり  
続けられるよう、スタッフ一同努めてまいります。どうぞお  
健やかに年の瀬をお迎えください。

## わくわくビレッジ便り

館長 西嶋健太

木々の葉がひとときわ色づき、冬の足音が近づい  
てまいりました。高尾の森わくわくビレッジでは、晩  
秋の雨にも負けず、たくさんの笑顔とあたたかな交  
流に包まれた一か月となりました。

まず、11月9日には恒例の「わくわくフェスティバル」を  
開催いたしました。今年で21回目を迎えますが、長い  
歴史の中で初めての雨天での実施となりました。それ  
でも多くの来場者の皆さまに足を運んでいただき、会場は  
にぎやかな雰囲気になりました。雨の中でも、ほとん  
どの出店が通常通り開店し、子どもたちの笑顔や地域  
の方々の交流があふれる一日となりました。皆さまの温  
かいご協力に、心より感謝申し上げます。

また、10月18日から11月24日までの間、多摩美術大  
学によるイベント「ポイエーシス」を開催しました。期  
間中の土日に、延べ100名の子どもたちを招き、自然  
の中での創作活動を行いました。木の枝や葉、木の実  
などの自然物を使って動物をかたどるこのプログラム  
は、「自然物でつくり、やがて森へ還る」という発想に基  
づいています。時間とともに朽ちていくその過程までも  
作品の一部ととらえる考え方に、子どもたちも自然と命  
のつながりを感じていたようです。



「ポイエーシス」の作品です。

（左手前：ウシ、手前右：マンドリン、奥：ウマ）

## 今月のピックアップ

並木真夫妻 八王子市ラン 3:21:48にて完走





## ひつじぐも便り

ひつじぐも 1年 黒澤絢

こんにちは。中央大学法学部1年、ひつじぐものワイズ班に所属している黒澤絢です。師走に入り、冬の訪れを感じる今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。

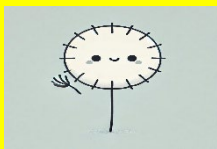
11月は授業によっては中間テストがある時期であるため、他の月に比べ、やや学内で忙しい生徒が多いように見受けられます。私は第二外国語で中国語を履修しているのですが、発音に苦戦していました。高校では書道部に所属していたこともあり筆記は好きなので進んで勉強しています。

今回はひつじぐもの11月の活動についてご報告させていただきます。テスト期間と重なっていることもあり、活動の数自体は多くありませんでしたが、一つ一つの活動に楽しみながら参加をしている学生がみられました。

11月2日には、【手をつなごうこどもまつり】として、児童館の遊びコーナーのブースのお手伝いをしました。遊びやルールの説明などを通して、こどもたちと触れ合うことができ、非常に楽しく活動することができました。

8日にはワイズ11月例会に参加しました。この例会をもって、班長が3年生の石原島さんから2年生の霞さんに引き継がれました。22日には八王子の生活実習所にて毎年開催されている【わたぼうし祭】に運営のお手伝いという形で参加させていただきました。27日にはオンラインでサークル全体の定例会を行いました。新体制になって初めての定例会となりましたが、新幹部を中心とし、充実した定例会となりました。また、30日には中央大学の後楽園キャンパスの周辺でゴミ拾いをしました。参加者同士で会話しながら楽しみつつ活動できました。一人で街のゴミ拾いを行うことはないので、良い経験をさせていただいています。ゴミ拾い活動を通して、私自身もどんなに小さなゴミでも落とさないように気を配るようになりました。落とす人がいるから、拾う人がいる。町を美しく保つためにも、ゴミは落とさないようにしよう。当たり前のことですが、ゴミ拾い活動をすることで、改めてそう思えました。

ここまで、先月の活動を振り返ってまいりました。活動日数こそ多くはありませんが、参加者は楽しみつつボランティア活動に取り組んでいます。これからも精一杯活動に取り組んでいきたいと思っています。



## 新旧委員長交代報告書

前委員長 石原島伶名さん



こんにちは。中央大学ひつじぐもの石原島伶名と申します。この度、ひつじぐも、ワイズ系の引き継ぎがありました。私はもともと副委員長とワイズの系の班長をさせていただいていたのですが、今月から交代ということで、今回は次の委員長と副委員長が来ていますので、ご紹介をさせていただければと思います。委員長の霞さんがワイズ系の班長も務めるということですので、あわせてご挨拶させていただきます。よろしくお願いいたします。

次期委員長 霞 ひかりさん



みなさんこんにちは。はじめまして。中央大学2年の霞ひかりと申します。今回は貴重なお話を伺えて、とても嬉しく思っています。11月から、私がひつじぐもの委員長とワイズの班長を務めさせていただきますことになりました。まだ皆さんとは十分に打ち解けられていませんが、私のことも知っていただけたら嬉しいです。

ひつじぐもとしても、ワイズメンズクラブの皆様と、これからさらに交流を深めていければと思っています。

これから一年間、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 11月クラブの第一例会報告 代・長谷川

日時:11月8日(土)13:00~15:00

会場:日本キリスト教団八王子ベテル教会

会費:ビジター、メネット 1,000 円(メネは会費に含まれる)

出席:稲葉、並木真、長谷川、花輪、久保田メネ、大久保、並木信一、西嶋、山本

ゲスト:千原 創(八王子ベテル教会牧師)

ビジター:後藤哲夫=卓話者、飯田剛、野々垣和宏、野々垣健五、松村禎夫、山本俊一(以上甲府 21)

佐藤茂美(東京)、為我井輝忠(多摩スマイル)、本川悦子(西)、小原史奈子(たんぽぽ)

中大ひつじくも:石原島伶奈、霞ひかる、櫻井美佳子、程 大龍 以上 24 名

◎卓話:「日本での百年—カナダ・メソジスト教会の歩み」後藤哲夫氏(甲府 21 クラブ)元山梨英和中学・高等学校英語科教諭

卓話資料「はじめに 自己紹介・なぜこの書物を翻訳するに至ったか」「宣教師とは何か」

◎中大ひつじくも役員交代挨拶・・・石原島伶奈さん、霞ひかるさん

◎報告

・10月25~26日(土・日) 長野クラブ 15 周年記念例会出席—長谷川

・11月3日(月) 山梨 YMCA バザー訪問—長谷川

・11月15日(土) 伊東クラブ 50 周年記念例会出席—久保田、並木真、長谷川

## ・11月22日(土) 第二例会報告 小口

日時:11月22日(土)18:00~19:40 北野事務所小会議室

出席者:(A)長谷川、小口、(B)花輪、望月、久保田、久保田佐和子 6 名

### <報告事項>

・11/8(土)13:00~15:00 11 月第一例会。八王子ベテル教会(出席者 28 名)

卓話「日本での百年 カナダ・メソジスト教会での歩み」後藤哲夫ワイズ(甲府 21)

出席:メンバー(稲葉、並木(真)、長谷川、花輪、久保田メネ、大久保、並木信一、西嶋、山本)

ゲスト:千原創牧師(八王子ベテル教会牧師)

ビジター:後藤哲夫、飯田剛、野々垣和宏、野々垣健五、松村禎夫、山本俊一(以上甲府 21)、佐藤茂美(東京)、為我井輝忠(多摩スマイル)、本川悦子(西)、小原史奈子(東京たんぽぽ)

ひつじくも:石原島伶奈、霞ひかる、櫻井美佳子、程 大龍 以上出席者 24 名。

スマイル・21500 円を八王子ベテル教会へ献金

・11/15(土)伊東クラブ 50 周年記念例会・・・出席者:長谷川、久保田、並木真

### <これからの予定と協議事項>

#### 12月クリスマス例会

・12/14(日)pm3:00~6:00 高尾の森わくわくビレッジ音楽室



集合時間:2:00(メンバー全員)バスの時刻などにより前後。場所:3 階音楽室

I 部 (3:00~3:40)・・・(奨励)飯島隆輔牧師「主イエスの誕生と学者、羊飼いの、

讃美歌 103、109 番(伴奏永町、お祈り(牧師))  
2部・・・(4:00~4:50)永町さん、阿部さん姉妹コンビによる楽しいコンサート  
永町匡世(ピアノ)ジャズ、阿部智世(バイオリン)クラシック みんなで歌おう(歌詞を用意)、永町さんによる、音楽クイズ。

・ハッピーバースディ(会長)

・スマイル・・・例年どおり、「多摩いのちの電話へ」寄付。集計報告/稲葉

・写真撮影(山本)  
3部・・・乾杯、特別御膳会食  
会費(メン-2500 円、ゲスト、メネット、ビジター-3,500 円、学生 500 円)

協議内容は:

・来年3月の街頭募金のこと  
・チャリティーコンサートの前の週(土曜日)に行う、JR 八王子駅での街頭募金の支援目的をどうするか。これまででは、地雷廃絶と重ねて、東京 YMCA の募金主旨に沿って、東日本大震災被災地支援、能登半島災害復興支援、ウクライナからの避難者支援、等を募金活動の目的としてきた。

今は、東京 YMCA の募金活動の主旨が示されていないため、最初の頃に戻って、ちらしのとりの「対人地雷・クラスター爆弾廃絶」のみにするのか、次回の 1 月例会で再度、話し合いを持つ。何かアイデアを、お寄せ下さい。

・3月チャリティーコンサート

・本日、1 人につき、チラシ 20 枚、チケット 10 枚が配布された。ポスターの配布は 12 月第二例会。

・コンサート当日の役割は、花輪さんから後日に説明。  
・次期の 2026-2027 年度八王子クラブ役員のこと。

・会長に久保田貞視さんを打診中。  
次年度のあずさ部長は、大和田ワイズ(松本クラブ)

・久保田佐和子さんからのご提案事項の了承  
・昨年が続いている、「北野子ども食堂」への今年も支援を続けられないか、佐和子さんからの説明が済みまし



た。(昨年は、11月スマイル 12,500円を寄付)

これまでの経過は、3月のコンサート前には、食堂にチラシを貼って、置いて頂いた。

また久保田佐和子さん個人として、直接に野菜、食料品、衣類など折りを見て届けておられた。

**提案として**、今年の支援の形として、クリスマスということでこの12月には、何か、メンバーでそれぞれが自宅にあるものを持ち寄って、子ども用品など届けられないだろうか。(本、学用品、など)というご説明。この提案を受けて、12月14日クリスマス例会の折に、各自が差し上げられる物品を持ち寄り、寄付とすることになりました。

以上

## 12月で誕生されたメンバー

該当者は無し

## 12月クリスマス例会

奨励者

飯島隆輔牧師 プロフィール

1942年中国天津市生まれ。18歳まで水戸市の郊外で生活。両親は水戸教会員。高校2年の時に受洗。立教大学文学部キリスト教学科卒業。在学中は学生YMCAの活動に参加。

東京YMCAに奉職し、武蔵野、山手、沖縄、英語学校などで青少年活動に従事。埼玉YMCA、仙台YMCAで総主事。退職後、(社福)いのちのでんわ、(特養)深川愛の園の勤務の後、早稲田教会伝道師・副牧師を経て城西教会牧師、同付属幼稚園園長。2024年3月引退。日本キリスト教団引退牧師。

1969年武蔵野クラブ(南東部)に入会。以降、山手(3回)、沖縄那覇、埼玉、仙台クラブに所属。2006年あずさ部長。山手クラブの廃部とともに退会。ワイズ歴50年。

妻 愛子 愛犬ロビン(アメリカンコッカ7歳)。

世田谷区在住。



## 11月の誕生記念撮影



花輪メネット、ひつじくも霞さん、甲府21山本俊一さん

9月の大久保メン、山本メン

## ♪ きよしこの夜 ♪

きよしこの夜 星は光 救いの御子は まぶねの中に  
ねむりたもう いとやすく

きよしこの夜 御(み) 告げげうけし まきびとたち  
は 御子(みこ)のみまえに ぬかずきぬ かしこみて

きよしこの夜 御子の笑みに めぐみのみ代の あ  
したの光 かがやけり ほがらかに

